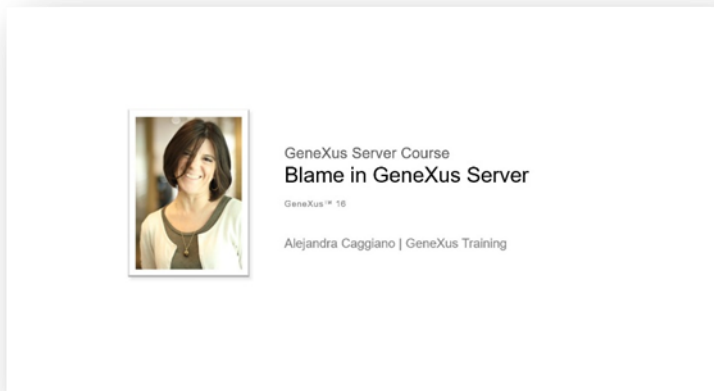


## GeneXus Server の履歴照会



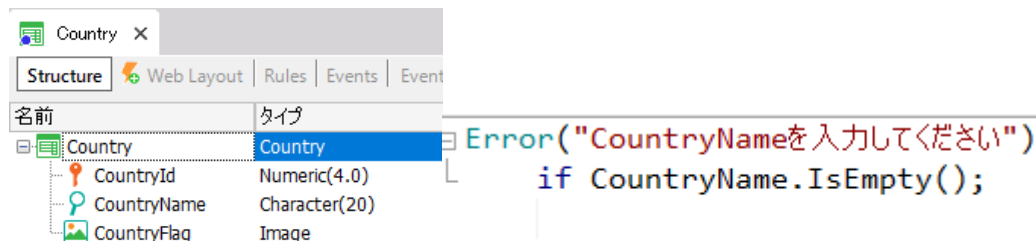
多くの場合、オブジェクトに加えられた変更と、その変更を行ったユーザーに関する情報を保持する必要があります。たとえば、開発チームで、最終変更のリビジョンにおいて「誰が」「いつ」「特定の行」をコミットしたか参照できる必要があります。

履歴照会機能を使用すると、これらすべての情報を取得できます。

GeneXus に移動して例を見てみましょう：

WorldCup KB にて、Country トランザクションにいくつかの変更を加えます。

Image タイプの新しい項目属性 CountryFlag を作成し、CountryName の入力を制御するルールも記述します。

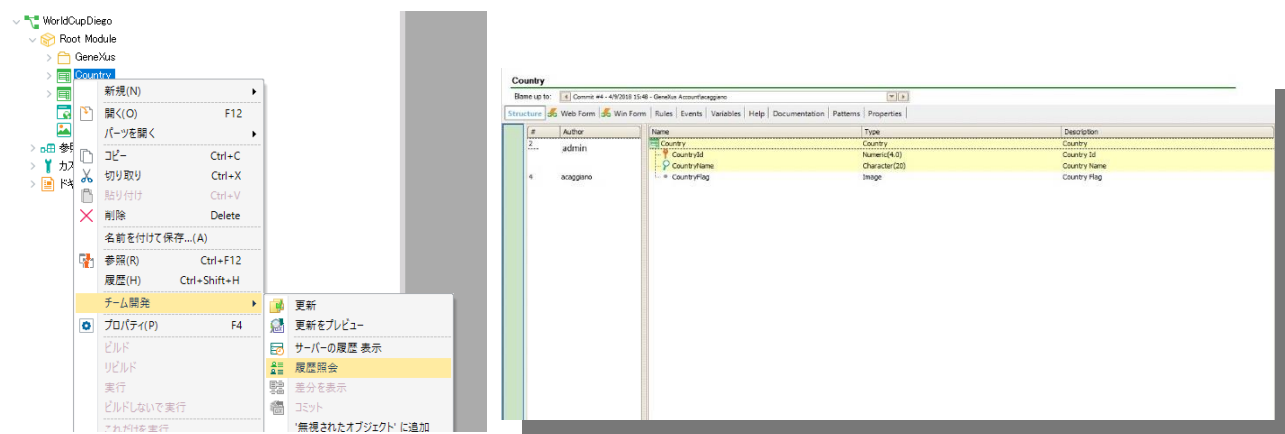


変更を保存した後、サーバーにコミットします。「チーム開発」ウィンドウを表示し、任意のコメントを入力して、「コミット」ボタンをクリックします。



次に、IDE で別の開発者の WorldCupDiego KB を開きます。

「履歴照会」機能にアクセスするには、「KB エクスプローラー」ウィンドウで Country トランザクションを右クリックし、「チーム開発」→「履歴照会」をクリックします。



次に、各開発者が行った変更をオブジェクトの各エレメントで確認できます。

インジケータの色の編集に関しては、「ツール」→「オプション」から「チーム開発」→「履歴照会」を選択してカスタマイズすることができます。

